

次期総合計画小出地区懇談会概要

日 時 平成21年7月18日(土) 18時~19時40分

場 所 小出地区コミュニティセンター

参加人数 29人

天 気 晴れのち曇り

事務局参加者 市長、木村企画部長、越野財政課主幹、高橋企画調整課長、小池課長補佐、
弓削副主査

* (市民) 道州制や市町村合併について触れられていないが、それらが進んだ際には、この総合計画の前提が変わると思うが、どのように考えていられるのか。

(市長) 基本構想の期間は10年間ということで、平成23年度から32年度までで考えております。ご指摘いただいたとおり、今、国において道州制の議論が盛んに行われております。しかしながら、まず、私達として大事だと思っているのは、基礎自治体としての役割は普遍性があると考えております。道州制が施行されて、例えば都道府県が廃止されるような状況にあっても、茅ヶ崎市という自治体が、今行っている事柄を確実に進めていくということは揺るがないことだと思っています。今回の基本構想の議論の中で、仮に道州制が導入されたらという仮定は、今のところしていません。市町村合併のお話については、県内の北部、相模原市が4町と合併をして大きな規模の都市になりましたが、それ以外の県内の地域については、合併の具体的な準備に入っている所はございません。私たちのまちにおきましても茅ヶ崎としてのアイデンティティーを持ちながら、なおかつ複数の市町で連携して行った方が良いこと、例えば藤沢市さん、寒川町さんとかごみの処理について、広域化して取り組んでいこうと、これは具体的に計画づくりも数年前からして事業展開をしておりますけど、こういった事、さらには、例えば医療についての対応についても、医療圏域がこの2市1町で組まれておりますけれども、そういった中で連携しようとか、そういう事柄は進んでおります。さらに、2市1町の中で様々な行政課題についての取り組みを充実していこうということで、協議会組織の活性化に努めております。こういった流れはこれからも大事にしつつも、まだこの10年間の中でどこかと合併をするという事は、これまでの基本構想の議論の中では念頭に置いておりません。

* (市民) 新総合計画の前記基本計画は完全達成できたのか。後期基本計画は今現在どのくらい達成できているのか。未達の部分はどうかされるのか。

(事務局) 後期基本計画、ちがさき・さわやかプランという事で、これまで10年間取り組んできました。今までの総合計画の課題ということで、達成指標を設けていなかったため、成果がどう表れているか表現が出来ませんでした。今回策定を進めています次期総合計画では指標を設けて取り組んでいきたいと考えております。そこで、後期基本計画、さわやかプランの評価ということで、実施計画の中では進捗指標を設けて行ってまいりましたので、それをもとに行政側の評価ということで、今まで取り組んで達成の見通しが出ている、あるいは、達成の見通しが出ていないといった評価を行い、9割程

度が一定の成果が出ているであろうという評価をしております。未達成の部分につきましては、次期総合計画の中で引き続き取り組んでいく課題と認識しております。

- * (市民) 近年の茅ヶ崎市の動向という項目で、やや不満だが不満の度合いの低い市民意識という表現があるが、私はそうは思わない。かなり不満があります。まず、南北の格差の問題、まだまだかなりの格差があると思っています。基本的な意識としてみなさんにはきちんと意識していただきたい。二つ目は、進行管理のこと、どのように進行管理が行われているのか。一つの例として、駒寄川の河川整備、これは第一次の実施計画から入ってきているだろうと思うが、ソフト計画があって、ハード計画、整備していきますということですが、現在の第五次実施計画に入っておりますソフト計画については、計画に盛り込まれているんですが全く進んでいません。地域住民の意見を聞くための検討委員会を作りますとか、議会では準備会を18年に立ち上げますという事だったが、全く立ち上がっていない。第四次・五次の実施計画のパブリックコメントでも何人かの人が、ソフトはどうなっているんだというような質問が出ているが、回答では基本計画にはまったく触れていない。計画作りが目的ではなく、きちんと実施して意味がある。きちんと進行管理していただきたい。

(市長) まず、南北問題という形でお話しいただきましたが、確かに道路整備、生活のインフラ、下水道整備等は市街化区域の中を先行して様々な取り組みがされています。しかしながらそういった中でも、必要な道路の整備やさまざまな施設整備につきましては南側を優先しているわけではなく、北側におきまして必要とされる部分、早期に整備をしなければいけないという様々な状況の中で対応をさせていただいております。様々な整備率について見れば若干の差が有るという現状は十分に認識していますが、今後出来るだけ市内全域に抱えている様々な問題について、特に生活をしていく上での安全・安心の確保というような事には重点を置きながら、それに不都合が出ているような事を解決する事を最優先にしながら対応していきたいと思っております。二つ目の計画の進行管理につきましては、昨年度の各地区別の懇談会で、今までの現行の計画はどうかと、そういった進行管理がきちんと出来ていない事は問題だろうと言う意見を多数頂戴しました。今回のこの総合計画におきましては、中間年の5年経過の時点までにどういった取り組みが出来ているのかしっかり評価して、後半5年の基本構想、変更しなければいけない事が有ればそこで変更していくという事も含めて考えております。同時にそれぞれの実施計画を策定する前に、これまで、例えば小出地区ではこういった事が課題とされていて、今の実施計画の期間中にこういう事に取り組んでいくという目標設定をしていた、それについて実際にどういう結果が出たのかという事をきちんと検証をしながら、そしてこういう状況だから、次は個々に重点を置きながら実施していくという事が示せるように進行管理をしていきたいと思っております。ご指摘いただきましたとおり計画作りが目的ではなく、それをきちんと達成する事をしっかりと進めて行かなくてはならないという考えでこれから対応して行かなくてはならないと思っております。

- * (市民) 北部丘陵トータルプランというのがありまして、県立公園の誘致といった非常に夢のある計画の提示がありまして、我々もこんな地区になったらいいなという事があ

った。せっかくの計画ですから住民に夢を与え希望を与える計画にしてほしい。特に前記の総合計画の中では都市農業の振興だとかそういう事もあったが、それなりの努力はされたと思うが、満足するような進行にはなっていないので留意して作って欲しい。

* (市民) 財政の収入を増やす方法の記述が弱いのでは。茅ヶ崎にあう優良企業がこの先居続けていてくれる方策や茅ヶ崎に好ましい優良企業の誘致を図るような話しが見受けられないが。行政経営編について、北部の行政拠点を充実するの部分について、どのような計画があるのか。小出支所は大変狭いし、入りにくいし、もう少し小出という地域に合った、トータルである程度、全ての行政や文化的な事が処理できるような場所があったらいいと思う。今の場所では狭いし入りにくい。また、コミセンとも少し距離がある。出来ればそういうのが統合された形で、小出の拠点になるようなものが設けられないか。

(市長) 財政、収入を増やすための取り組みについて、この政策目標で言いますと4番目の所にあります、政策目標13の地域の魅力を広く発信する活力ある賑やかなまち、ここで対応していくことだと思っています。ご指摘のとおり、市内にある優良な企業が外に出ないようにする事がまずは最低限の目標だと思っています。それについては、これまでも精力的な対応をしてきましたが、これからさらにその点には重点を置きたいと思います。そして出来れば、経済情勢がこういう状況なので、なかなか企業が新規に入ってくるのは難しい側面もあるかもしれませんが、だからあきらめてしまうのではなく拠点となりうる場所を創出していこうということで、現在進めております都市計画の見直し作業の中で萩園地区に、今、市街化調整区域になっているところですが、そこに商工業の利用が出来るような都市計画上の変更をしようという事で、地元の方とも意見交換をしながら取り組みを進めています。相模縦貫道路の完成が平成24年度という事になっていますけれども、寒川の南インターチェンジが出来る予定ですが、その寒川町との隣接地になります。その方向が定まってくれば、その場所に対して市外から、また、市内の企業がその場所に事業を拡大していただくという事も可能性としてはあると思っていますが、そういった事をこの10年の中でしっかりと形にして行かなくてはならないと思っています。湘南地区というのは研究開発系の研究所又は大学が集積しているエリアであります。こういった現状を最大限活かしていくこと、これらは茅ヶ崎市単独で取り組むだけではなく、藤沢市や寒川町と相互的な産業施策を取り組んでいきたいという方向も、今打ち出しをしようという事で準備をしているところでございます。

(事務局) 北部の行政拠点を充実していく事につきまして、まずは小出支所の機能を充実していくということで、現在199項目の事務を取り扱っております。もっと項目を増やすことが出来ないか検討したいと思っています。小出第二小学校用地についても次期の総合計画に位置づけられる事になると思いますが、そこでも地域のコミュニティが関わりを持ってそこで過ごせるというようなことも、事業としては位置づけたいと考えております。第二小学校用地の活用につきましては、これまで市民の方にご意見等いただいております。そういった中で具体的に載せられるかどうかを検討していきたいと思っています。

(企画部長) 北部拠点の充実につきまして補足させていただきますと、公共施設整備・

再編計画というものを昨年の3月に策定しております。その中の整備プログラムが有りますが、小出支所につきましても後半ではあります再整備の位置付けがされております。駐車場が狭い、入り口が交差点にあり危険等、十分に認識しております、整備プログラムには入っております。施設の整備についても、今後地域の皆さまと十分協議しながら整備していかなくてはならないと考えております。これにつきましては、総合計画の中の実施計画に位置づけてまいりますので、その際にご議論させていただきたいと思っております。

* (市民) 芹沢の里山公園の周りは道路がどんどん出来るが、堤の方は何もやってくれない。芹沢の公園周辺と同じように、堤の上、下もやって欲しい。もう少し堤に力を入れていただきたい。

(市長) 堤地区の皆さまには、市民生活を支えていただいている部分、私は大きな感謝をしています。多くの市民が毎日の生活が出来ているという部分も、この小出の地区の方々に大きな負担をかけている部分が大いという理解は着実に広がっていると思っております。例えば道路整備でいうと、今お話しいただきました県立公園の周辺道路について、今、神奈川県でも平成25年度に公園の完成を目指して事業化を進めていただいております。それに関連する、付随する市の道路整備もしなくては行けないということで、こちらは今そういった時間的な動きがあるということで、ご指摘いただいたように、かなり集中して整備しているという状況があります。当然、新しい総合計画で言えば平成25年というのは前半期のちょうど折り返し地点ぐらいですから、それ以降、北部の道路整備、生活道路の整備、また、お話しに出たような安全性を確保していくために歩道を整備していくとか、そういった事にさらにいっそう集中して取り組んでいかなくては行けないと思っております。来年以降実施計画を策定する中では、今いただいたご意見を踏まえながら策定の優先順位を考えていかなくては行けないと思っております。そういった中ではあります、何も考えていないのではなく、具体的な動きをしようとしているのが浄見寺周辺で南側にあります文化資料館をこちらの方に移設をしまして、一帯を茅ヶ崎の歴史的な拠点として整備が出来ないかという事で内部で議論を始めています。この議論につきましても、数年の内に地元の皆さんとより具体的な意見交換をさせていただきながら構想作りをしていきたいと思っております。その際には周辺の駒寄川についても、完成型に近いような場所をまずモデル的に作っていかうという事も内部で議論しています。そういった所を核としながら、これから先、今まで遅れておりました様々なインフラ整備を計画的に進めてまいりたいと思っておりますので、是非期待を寄せていただきたいと思っております。

* (市民) かつてライフタウン等の北部を開発する時に、地権者の権利をある程度制限して道路整備をした。だから金ばっかり出して整備するだけではなく、話をきちんとすれば地主は話がわかるので道路減歩で20%、30%取られても市街化区域の方が良いと思う。百姓をやりたいという者もいるが、堤の農地の道路は車が入れない、そんな道路が何本もある、市街化調整区域のうちに道路整備を進めては。

(市長) これから急速に高齢化が進む中で、車がそれぞれの自宅がある所まで入れる環

境をきちんと維持していく事は、大切な課題だと思っています。今お話しいただいたように、大変せまい生活道路が有るという事も承知しております。そういった中でその改善を市街化調整区域のうちに整備をすればコストが安く済むのではないかとのご指摘だと思いますが、そういった視点ももちろんあると思います。そういう中でこれからどういう優先順位を付けていきながら、小出地区の生活道路の改善をしていくのかという事を、今回の新しい総合計画の中でも非常に重要な課題だと思っておりますので、一定の方向性を市としても地元の方と協議をさせていただきながら出していきたいと思っています。農業をやる上で道路整備が必要だということについてもごもっともなご意見だと思います。そうした事も踏まえながら、これから必要な道路整備を重点的に対応していきたいと思っています。具体的な内容については実施計画の策定作業の中で反映をし、また、皆さんからご意見を頂戴したいと思っています。

* (市民) 施策目標の42番、道路網を整備するという項目についてお伺いしたいが、先日、都市計画道路の計画図をもらってきたが、市街化調整区域に都市計画道路の計画がほとんどないがどうしてか。

(市長) 今の都市計画道路の線が引かれたのは昭和30年代です。その時点で計画した道路整備もまだ半分を少し上回った程度の整備率だと思っています。今回そういった状況の中で、茅ヶ崎だけではなく全国的に進めていますが、都市計画道路をこれからどうしていくのかと、本当に必要な路線と必要なくなっている路線と見定めをしなさいという事で、国の基準に基づいて客観的に分析をしました。市の路線について見直しが必要だということになった路線は1路線のみです。ここまで時間をかけても整備が半分程度しかできていないという状況の中で、これからどうするんだという事で、今年度と来年度、今ある都市計画道路をどういう優先順位を付けながら整備をしていくのかという、整備プログラムを作っていく予定です。そういった中で、今お話しができました、当該地区の貴重な路線であります東海岸寒川線についても、今後どうやって整備をどの時期にするのかという事は大事な論点だと思っております。もう一つ、北部にもっと計画的な道路整備を位置づけるべきではないかというご指摘ですが、それらにつきまして、これからまだ議論を深めていかなければいけない部分もあると思いますが、既存の都市計画道路について、まず整備していくという事、この中でも優先順位を付けていくという事が第一で、現在ある小出地区での道路整備では、先ほどお話しが出た公園周辺の道路整備、さらには大岡越前通りは東西を抜ける貴重な道路になっているので、こうした既存の路線をより安全で快適に車両が通行でき、歩行者の方も安心して通行できるような環境を作っていく。おそらくそういった事が先決する話題だと思っています。例えば大岡越前通りは都市計画道路ではないですが、そうした整備というのはこれからきちんとしていくという事は、この総合計画にきちんと位置づけるべき事だと思っています。

* (市民) 少子高齢化が進むということで、市としてどのような支援を考えているのか。茅ヶ崎市ではないですが一般的に高齢者が入る施設が少ない。高齢者が入れない状況があると思います。公共の場合は良いのですが、民間の場合は入所するために3千万円から5千万円必要、我々はそんなお金がないので、市が運営できる施設の計画はあるのか。

北部から南部に向かう道路の整備をもっとして欲しい。

(市長) 高齢化に向けての様々な施設整備について、実は茅ヶ崎市が勝手に計画を作ってどんどん施設整備が出来るという状況ではありません。それぞれの自治体における高齢化の進展度合いであるとか、高齢者の中でどのくらいその施設を必要としているとか、諸々のデータに基づいて3年単位で計画を策定して、それについて県や国がこういう目標で良いだろうという話しの中で、施設整備が出来るというのが現状のルールです。こういった中で私自身が感じているのが、国の考え方がこれから急速に都市部で高齢化が進んでいくという事にあまり注視出来ていないのではないかと考えています。これからは都市部の自治体の首長がきちんと言うべき事は言って、少し前倒していろんな事をしていかなければ、急速にスピード感を持って高齢化していく時に、あわてて施設整備が出来るかと言ったら、出来るわけないわけで、そういった事をもう少し柔軟な対応が出来るような国の方針を策定すべきだということを主張していかなくてはいけないと思っています。そういった視点を持ちながら市としても最大限、あわててどこかの時期から施設整備をするという事ではなくて済むような、対応をしていかなくてはいけないと思っています。もう一つは、施設に依るところのお話だけではなく、在宅で皆さん介護をされているご家庭もたくさんあると思うんですね、そういったところに対する支援、取り組みもより充実していかなくてはいけないと思います。今、茅ヶ崎ではそれぞれの個々の地域、例えば小出地域の中でお互い支え合いが出来るような体制づくりという事を地域福祉計画に基づいて進めるように議論をしています。これまでも地域福祉計画はあったわけですが、その実効性をより高めていく事を重点化して対応していきたいと思っています。

二つ目の北部から中心市街地に向かっていく道路に関してもきちんとした整備をしていくべきではというお話ですが、事例として出していただいた小出県道非常に環境としては良くないと思います。特に休日にはかなりの渋滞を起こしている現状も承知しております。これらについて、出来るだけ早く解決するために、今、小出県道に過度の負担がかかっておりますが、東海岸寒川線、鶴が台団地から小出県道に抜けるまでの間が未整備の状況です。ここの整備があと2～3年程度で完了すると思っておりますので、この路線が出来る事で小出県道にかかっている今の負荷がかなり分散できると思っておりますが、それが出来た中で、未整備状況の小出県道についても、歩道の整備を始め県にも必要な整備を働きかけたいと思っています。道路整備につきましては、新たな実施計画策定の段階で具体的に時期等も明示していければと思っています。

* (市民) 北部の農業の見通しと食の安全・安心について市で支援が出来ないか。

(市長) 手元に資料がありませんので具体的に数値でお答え出来ませんが、小出の地区の中でも、農家の方々が一生懸命農業を進めていただいているエリアと、なかなか担い手がいなくて荒廃が進んでいる部分もございます。市としては少しでも荒廃した農地を減らしていくことにより一層重点化して取り組んでいかなくてはいけないと思っています。その事で地元で安心して食べられる質の高い農業生産物が出来ると思っていますので、それに向けての対応をこれから重点化していかなくてはいけないと思っています。その中でおそらくポイントとなるのが、この数年の中で農地に関わる様々な法規制がだ

いぶ変わってきています。こういった中で行政であったりJAさんであったり、そういったところがきちんとした仲立ちをしながら、農家の方々の土地を守りそしてその土地を有効に農地として活かしていくという事の施策をより重点化して対応しなければいけないと思っています。それらの事柄につきましても新しい総合計画の中で一つの重点的な取り組みになる事は間違いないと思います。これは今年から始めた取り組みですが、水田で耕作をいただいている方に対し、今までは市街化区域内の水田に水害を減らしていくという機能もあるという事で補助制度がありましたが、この制度につきましても市街化調整区域についても対応するという施策を始めさせていただいています。今は、水田だけですが、これから先の展望としては、畑についても一定の機能があるわけですから安全性を守っていくという視点からも、農地を管理していただいている方に何らかの支援が出来ないかということをお次のステージの中で議論していきたいと思っています。

(企画部長) 数字的な事で申し上げますと、平成7年が耕地面積が449ヘクタール、平成17年で315ヘクタールと減少しています。農家数でいいますと、817戸あったものが688戸、農業就業人口の中の60歳以上の高齢者の割合につきましても、平成7年が58.8%であったものが平成17年度は63.8%となっております。

* (市民) 企画力と先見性が市役所に足りていないのではないかと。総合計画の策定については、市役所を挙げて先見性、先ほども出ましたが道路についても早くやれば財政的な部分も縮小できると思う。駒寄川についても大岡越前通りについても同様である。後手の行政にならないように、先見性を持って計画を作っていただくことが厳しい財政状況に対応する方策かもしれない。是非そういう事を念頭において新しい総合計画を作っていただきたい。二つ目は、茅ヶ崎市は隣の藤沢や平塚より全国的に見ると知名度が高い。外から見ると大変素晴らしいまちだが、住んでいる住民にとって、私だけかもしれないが、大変厳しいものがある。茅ヶ崎の財政がこれから厳しいと思っている。こういう中では市民も市役所の職員も我慢しなくてはいけないと思う。民間の皆さんにも協力を求めるところは協力を求める、そして市民にも財政の状況を訴えて協力を求めることも大切だと思う。

(市長) 企画力や先見性が弱いというご指摘でしたが、これは私の主観ですが、本市の職員は県内でも人口あたりの職員数が一番少なく、その中で行政運営をさせていただいております。そういった中で日常の様々な業務に追われて、本来役所の中で大事な部分である、将来を見据えて必要な事を必要な時期に対応していくといった政策的な議論というのが、なかなかしえる体制になかったという部分があると思います。だからといって職員数を増やすという方向ではないと私は思っています。この数年、2~3年ですけど市役所の仕事の進め方をもっときちんと整理していこうと、本来の常勤の職員じゃなければならない、常勤の職員が行わなければならない業務とそれ以外、今お話しにもありましたが民間の力を借りたり臨時の職員に対応してもらったりすることが出来る事これを切り分けをしていって、正規の職員が、ご指摘いただいたような先見性を持った政策立案をしたり、それを着実に進めていくいろんな業務管理をしていく、そういった事柄に時間が割けるような体制を作っていくという事で、この2~3年重点化をして対応をしています。今回この総合計画の議論をしていますけど、この計画に合わせた組織の

再編を来年の4月に予定しており、その再編の中での一つの課題が業務の進め方を変える中で新しい組織体制を作り上げていこうと、今お話しいただいたような政策立案分野等に多くの人が割けるようにしていこうという事で協議をしているところです。二つ目に知名度はあるけどなかなか置かれている状況は厳しいだろう、これを改善するためには行政だけではなく民間の力さらには地域の皆さま方にも力を借りていくべきだという、そういった事の情報発信もしっかりしていくべきだというお話をいただきました。そのとおりだと思っています。これも県内全体を見た中で、私は茅ヶ崎の市民の方々の住民力、市民力は非常に高いものがあると思っています。テーマのコミュニティの力も強いですし、さらには自治会を中心とした地域のコミュニティも強いと思っています。そういった中で、あらゆる公共的なサービスを行政だけが担っていくという事ではなくて、今まででもテーマコミュニティ、地域のコミュニティの皆さんの力を借りてきたわけですが、それをさらに一層皆さんの理解を求めながら進めていかなければ、将来高齢化した社会の中で、まちを安定的に運営していく事は不可能だと思っています。今日、後段で議論させていただきます自治基本条例の議論もそういったところにも関わりがある部分だと思っています。市民の方々とまちの置かれている状況をしっかりと共有化して、そしてより快適なまちにしていくための役割分担もしながら、担っていただく事柄をしっかりと分けていきながら対応していくという事を目指していく、そういったための基礎的なルールが自治基本条例の中に位置づけられていると思っています。そういった体制の中でこれから進めていきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

* (市民) 行政経営について、指定管理者制度が導入されまして、茅ヶ崎でも100を超える指定管理者があらうかと思う。そうした中で縦割り行政の弊害という事で様々な問題が起きています。指定管理者を束ねる課を新しく作るべきだと思います。私も今2ヶ所を指定管理しているが、報告書、市民活動推進課に出しなさい、青少年課に出しなさい、それもなるべく詳しくという事で、事務局が一つで職員が一緒にやっていてどうやって出すのかと、出すんだったら事務局を二つ付けて、全ての施設を別にしなかったら出せないと言ったら、占有率でという事で、何のために占有率で出すのか。そういった弊害というのは一つの課を作れば解決すると思う。税務署の方は連結決算という事で一つの決算書で税務申告している。市の方は課を新設して、そこに人材を集めなくては行けないのでは。神奈川新聞の連載で指定管理者についての記事があったが、そうした中で一番問題になっているのが、指定管理の委託に対する協定や料金に対する不備・不足があって、指定管理者とトラブルになっているという事を最終的に結論づけられていたが、それを改善していくには、公認会計士または税理士をその課の中に抱えて、その人が目を通していかないとだめだろうと。そういう不備のために大切な税金がだいぶ使われてしまったというような事実がございます。やはりこれは英断を持って、そういう課を作るべきだと思います。様々な課毎にいろいろあって、皆さん苦労されています。行政の都合によって私達が振り回されるという事で、実情にあった行政運営をしていただきたいと思っております。

(市長) 一つの大きな課題として、今まで指定管理者によって管理している施設の運営状況、その指定管理者と行政とのやりとりも同じ市役所に対応しているにもかかわらず、

かなりの課によって、所属によって差があったという部分もございます。今お話しがあったような複数の課でもっと統一してやれば管理を受けている団体にも負担をかけずに対応できるような事が、かなりの負担をかけながらそして非効率に進められていたという事実があります。そういった事に対する改善は、今、内部でも議論をしている最中であり、新しく一つの課で対応しうるのでどうかという事も、今日いただいた話題なので議論はしてみたいと思いますが、いずれにしても今までの指定管理者の方と行政のやりとりというのは、非常に課題がたくさんあったと認識しています。そういう中での改善策は、出来るだけ早くやれるものから手を付け、今お話しいただいたような視点で対応はしうるのでどうか早急に議論させていただきたいと思います。

* (市民) 市はゴミを燃さないように処理できないか。例えば、ヨーロッパではそういうような方向で進めているそうです。市民がゴミを燃やすとすごい臭いがしますよね、市は燃しても良いんです。だけど、なぜでしょう、そのゴミを堤へ捨てているんですね。安全・安心のまちづくりであればそういう事も考えに入れて、今後ゴミ処理を検討していただきたいと思います。回答はいりません。

* (市民) ライフタウンについて、茅ヶ崎から藤沢への返還というか、ずいぶん運動をしていますがなかなか実っていません。茅ヶ崎市から藤沢市に戻りたいという要望が出ていますが、その辺は現状のままで計画が策定されているのかどうか、地域で話したいと思いますがいかがでしょうか。

(市長) ライフタウンの市境の問題で、非常に大きな問題で、また、歴史的にも時間がかかり経過している問題です。ただ、そこにお住まいの方々にとって非常に大きな、重要な問題だと認識しております。この問題についても、議会の中でもいろいろご意見を頂戴していますが、その際に私の方から申し上げているのは、あの開発をされたときに、両市の中で一定の合意事項があった、例えば市境の問題でいえば予定線を引いて、事業が完了した時点で、その線によって市境としようという事が合意事項としてあったわけです。私はそれをベースにしながら議論をしなければいけないんだろうと思いますが、残念ながら昭和60年代に藤沢市において議会が変形調整案というものについて対応していくべきだというような議会としての判断をされております。藤沢の行政もその判断に基づいて、これまでいろいろ対応したいというのが基本的な考えにあるんだと思いますが、私は市長にならせていただいてから、今まで藤沢の市長さんに言っていることは、この問題は、まずは藤沢がその合意事項まできちんと戻っていただかないと、その後の議論は何も出来ないでしょうという事を申し上げております。ですからまずは、その課題を藤沢市の中で対応していただきたいということが、私の率直な気持ちです。もう一つ、こういった課題を抱えたままの状況の中で、住んでいらっしゃる住民の方々に、一つのまち並みの中で同じような生活が出来るように、両市間では色々な行政協力をしております。課題があれば、それについては、両市の担当者がより良い形で方向性が見いだせるようにという事で、取り組みをしてきて、かなり実績が出ていると思います。それは、これからどういう両市の関係にあるかがしっかりと進めていかなければいけない課題だと思っています。そういった対応を新しい総合計画の期間中もしていくと

いう事が、今、ベースにある状況だと思っています。